

「気づいて・考えて・行動する…自律的組織づくり」に端を発した

## 西濃運輸における「現場の知恵からの安全・ヒューマンエラー防止」の取り組み

「安全意識・ヒューマンエラーに対する対策は、やがてはマンネリ化、形骸化してしまう。常に刺激を与え続ける事が、それらに対する意識の高揚や継続につながる…」

当社でもこれらは継続的課題と考えて様々な形で取り組んでまいりました。本社主導で取り組んで来た事も多々ありますが、「現場での取り組みを水平展開した事例」が多々あります。そういう土壌を醸成すべく、「知恵のWANTED・気づきの取り組み」として、当社では展開をスタートしてから、4年が経過しました。

「1人ひとりが気づいて・考えて・行動する」⇒「現場での組織として取り組む」⇒「本社がバックアップして全店展開を推進する」

というフローで展開してまいりました。それらは、「現場で課題と考えて出てきた対策事例」であり、非常に説得力があります。ここでは、その一部を紹介します。



点呼実施時に握手で送り出す



出発前の窓拭きに事務所員も参加して  
労いの気持ちを込めて行なう



ご家族にご協力いただいて門前督励を実施



「安全の花壇」を作成して乗務職が交代で  
世話をする



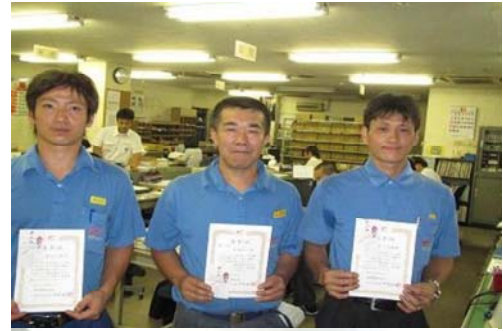
七夕にあわせて、ご家族や  
本人たちで書いた安全祈  
願の短冊を吊るす



急の付く  
運転するだけ  
プロの恥  
大阪支店 営業  
○○さん



誤配・エコ安全ドライブにちなんだ、「セイノー川柳」を募集し、優秀作品には、表彰を実施。



ドラレコデジタル複合機での1ヶ月の平均評価点を競い上位入賞者に店内で表彰を実施。



車高の異なる車両を複数運転するので、それぞれの車種の高さをイメージできるポールを出入りに設置して、確認の上出発している。



写真左から、「安全へのメッセージ」が書かれた紙おしぼり、ウェットシート、歯磨きセット… 安全意識を呼び起こすために、点呼実施時に、「+α」を配布する。



自分たちの営業所の構内で注意喚起を呼び覚ます路面ペイントなどを、「自分たちで」行なう。

これらは、対策書やマニュアルを作る…で終わるのではなく、「じゃあ、実際にどうするのか？」

「これらの原因はなぜ？なぜ？なぜ」と、そこに働く方々が、知恵を出した取り組みです。もちろん、出来る出来ないはあると思いますが、「これまでと違った行動パターンを作る。常に変化を作り、刺激を与え続ける。」といった事が肝要と考えます。